

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

大館市防災キャンプ推進事業

大館市

【事業のポイント】

- 学校を避難所とした生活体験を実施。
- 防災教育プログラムの実施。
- 児童、保護者、地域住民等の参加。
- 小学校、PTA、地域委員会、学校後援会、地域住民、まちづくり協議会等で構成する、企画運営委員会を組織。
- 日本赤十字社、社会福祉協議会、消防機関、町内会、婦人会、地域住民などの協力を得て実施。



矢立小学校防災キャンプ

1. 企画

(1) 事業実施の背景

東日本大震災を受け、非常時には瞬時に適切な対応をとることが求められるため、必要な技術や知識を習得する体験活動の場が必要である。

東日本大震災では、多くの被災者が長期間、避難所での共同生活を送る事態となったことを踏まえ、避難所体験、野外炊飯などの非常時の生活を想定した体験を行う機会を設けることが必要である。

非常時にどのような行動をとるべきかを体験的に学ぶ機会になるとともに、親子や地域住民などが協働して取り組むことにより、非常時も共に助け合うことのできる地域の絆づくりと防災意識の高揚につながる。

(2) ねらい

- ①大災害が発生したときに、自分の身は自分で守る、共に助け合うことを学び、必要な技術や知識を習得する。
- ②市の教育の根幹に据えている「おおだてふるさと・キャリア教育」の一環としても、地域の方々との触れ合いの中で、地域で『生きる』ことを学び、地域の一員としての自覚をもつようにする。
- ③避難所体験を地域全体で取り組むことを通し、地域住民の絆を深め、防災意識の高揚を図る。

2. 事業概要

(1) 運営体制

2校とも、日本赤十字社秋田県支部大館市地区、大館市消防本部、大館市老人クラブ連合会、各町内会、婦人会等の協力のもと地域住民の参画を得て実施した。

・大館市立城西小学校：地域の代表としてPTA、地域委員会、学校運営委員会を中心に企画運営し、体育館で宿泊、避難所体験をした。楽しみながら防災学習を行った。

(宿泊児童は6年生のみ)

・大館市立矢立小学校：地域の代表として地域委員会、学校運営委員会、地区町内会連絡協議会、地区婦人会を中心に企画運営を進め、体育館で宿泊、避難所体験をした。楽しみながら防災学習を行った。

(2) 開催実績

月 日	内 容
5月16日～	事業日程の調整及び運営体制の検討(2校)
7月8日	大館市立城西小学校防災キャンプ第1回企画運営委員会(大館市教育委員会)
8月20日	大館市立矢立小学校防災キャンプ第1回企画運営委員会(大館市教育委員会)
8月29～30日	大館市立矢立小学校防災キャンプ(大館市教育委員会)
10月1日	大館市立城西小学校防災キャンプ第2回企画運営委員会(大館市教育委員会)
10月9日	大館市立矢立小学校防災キャンプ第2回企画運営委員会(活動総括)
10月17～18日	大館市立城西小学校防災キャンプ(大館市教育委員会)
11月6日	大館市立城西小学校防災キャンプ第3回企画運営委員会(活動総括)

3. 防災キャンプ実施概要

(1) 活動名: 矢立小防災キャンプ

活動趣旨: 自分の身は自分で守り、地域の方々と協力しながら避難所となる学校体育館で宿泊し、災害・防災についての学びなどの防災教育プログラムを取り入れることにより防災意識の高揚を図るとともに地域全体で取り組むことをとおし、地域住民の絆を深める。

実施日: 平成26年8月29日(金)～平成26年8月30日(土)

実施場所: 大館市立矢立小学校

参加範囲: 大館市立矢立小学校児童及びその保護者と地域住民

参加人数: 115人(矢立小学校児童48名・保護者30名・地域住民26名・職員11名)

(2) 活動名: 城西小防災キャンプ

活動趣旨: 自分の身は自分で守る大切さを学んだり、地域の方々と関わりながらの避難所運営を通して、非常時の実践力を高めたりして、防災意識の高揚を図るとともに地域住民の絆を深める。

実施日: 平成26年10月17日(金)～平成26年10月18日(土)

実施場所: 大館市立城西小学校

参加範囲: 大館市立城西小学校6年生児童及びその保護者と地域住民

参加人数: 117人(城西小学校児童45名・保護者38名・地域住民30名・職員4名)

4. 普及啓発の実施概要

(1) 研修会での成果報告

研修会名 平成26年度「防災教育指導者研修会」

実施期日 平成26年11月20日(木)

実施場所 秋田県総合教育センター

参加人数 282人

対象 保育所・幼稚園、小学校の教諭、市町村教育委員会防災教育担当職員等

プログラム 13:30～「防災キャンプ推進事業」成果報告

(2) 秋田県ホームページに平成26年度の本県防災教育の取組をまとめた「防災教育実践事例集」を掲載する際、「防災キャンプ」の取組事例を取り上げ普及啓発を図る。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- ①自分の身は自分で守り、共に助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- ②地域で『生きる』ことを学び、地域の一員としての自覚を持つきっかけとなった。
- ③地域住民の絆が深まり、学校を含む地域全体の防災意識の高揚がみられた。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- ①避難所を想定した学校備蓄品の必要性。
- ②学校が避難所となった場合の学校・地域・関係各機関の役割の明確化と非常時の運営体制の整備。
- ③学校・家庭・地域が一体となった継続的な避難訓練などの実施と地域全体の防災教育の推進。

特に、②では、学校が避難所となった際の役割分担を明確にし、避難所運営の主体、学校開放の範囲、学校機能を維持しながらの避難所運営への協力体制などを踏まえた訓練が求められていると言える。

(3) その他

特になし

6. 団体プロフィール

大館市教育委員会

〒018-3595

秋田県大館市早口字上野43番地1

TEL:0186-43-7111 FAX:0186-54-6100

URL: <http://www.city.odate.akita.jp/kyouiku/top.html>

【担当】

生涯学習課

〒017-0822

秋田県大館市字桜町南45番地1(中央公民館内) TEL:0186-43-7113 FAX:0186-43-3536

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

北秋田市防災キャンプ推進事業

北秋田市教育委員会(生涯学習課)

【事業のポイント】

- 「もし、学校が『避難場所』になったら！」を想定する。
- 学校＋保護者＋地域＋行政＝地域ぐるみの防災意識の高揚を図る。
- 子どもたちの防災活動体験をとおして、住民との実際の避難所開設に役立てる。
- プロの大人(自衛隊、日赤秋田県支部)から学ぶ。
- 3.11での教訓を、講話をとおして学ぶ。
- 地域住民とのコミュニケーションを深める。



救助活動に使用する「野炊炊具1号車」の説明を受ける

1. 企画

(1) 事業実施の背景

- 活力ある地域コミュニティの核となる学校を目指す「学校支援地域本部事業」の事業方針も取り入れ、千葉県秋津市の防災キャンプをモデルに体験活動をとおした「防災教育」の一環として取り組む。
- 市役所や消防署の協力を得ながら実際の場面を想定した地域ぐるみの訓練も兼ね、防災意識を高める。
- 組織体制づくりも要素に入れ、「実行委員会」組織を立ち上げ、今後の活動に活かす。

(2) ねらい

実際に仙台市であったように、3.11の大災害が発生した際、市役所が救援に向かえず「学校」が避難所になった例を想定し、児童、生徒、地域住民の初動体制を確認するとともに、避難所ではどんな生活になるか、また、何をすべきかを防災キャンプをとおして体験する。
特に、住民と一緒に「避難所」を開設することにより、お互いに助け合うことや必要な防災意識を学びながら、地域住民とのコミュニケーションを深める。また、自衛隊第21普通科連隊や日赤秋田県支部の協力を得ることにより、非常時の実践力を高め、防災意識の高揚を図る。

2. 事業概要

(1) 運営体制

- ①PTA、地区婦人会、日赤秋田県支部、北秋田市役所総務課防災担当、北秋田市消防本部、自治会、公民館の協力のもと実施する。
- ②PTA会員や自治会、公民館等を中心とした「実行委員会組織」を中心に、地域と子どもたちのコミュニケーションを深めながら、防災体験をとおして絆を深めるとともに、特に、父親参画事業として、次年度以降に引き継がれるような取り組みを図る。

月	日	内 容
6月	2日	米内沢小学校: 第1回学校支援地域本部事業協議会において事業説明
6月	9日	綴子小学校 : 第1回防災キャンプ実行委員会
7月	1日	第1回北秋田市防災キャンプ企画運営委員会
7月	7日	米内沢小学校: 第1回防災キャンプ実行委員会 *PTA防災キャンプ打ち合わせ
7月	14日	米内沢小学校: 第2回防災キャンプ実行委員会
7月	23日	綴子小学校 : PTA防災キャンプ実行委員会
7月	26日～27日	米内沢小学校防災キャンプ
8月	27日	綴子小学校: 第2回防災キャンプ実行委員会
8月	29日～30日	綴子小学校防災キャンプ
9月	24日	第2回北秋田市防災キャンプ企画運営委員会

3. 防災キャンプ実施概要

<米内沢小学校7/26~27>

◇主な活動

○開所式 ○避難所開設(校庭) ○受付 ○引渡し訓練 ○防災学習Ⅰ・自衛隊第21普通科連隊による防災学習・市役所防災係 ○炊き出し訓練・「トン汁」「おにぎり」(日赤奉仕団による指導)・米小防災焼き ○防災学習Ⅱ・ワークショップ①「3.11の教訓に学ぶ」講師:岩手県船越小学校教諭 坂下大輔氏 ②「防災キャンプ実践紹介」講師:文部科学省コミュニティマイスター 岸裕司氏
○閉所式

<綴子小学校 8/29~30>

◇主な活動

○開所式 ○避難所開設・受付・ダンボールハウス設営(体育館)・引渡し訓練 ○防災学習Ⅰ・救急救命講座~災害時の怪我の対処法を学ぶ(日赤秋田県支部)・市役所防災係による説明 ○炊き出し訓練・トン汁(婦人会)・ハイゼックス炊飯(日赤秋田県支部)・綴子ナン焼き ○防災学習Ⅱ 講話「防災で大事なこと」講師:気仙沼市立病院脳神経外科科長 成田徳雄氏・暗闇探険・災害図上訓練 ○閉所式

※複数回実施した場合は、実施回数分枠を増やして記入してください。

4. 普及啓発の実施概要

(1)研修会での成果報告

研修会名 平成26年度「防災教育指導者研修会」

実施期日 平成26年11月20日(木)

実施場所 秋田県総合教育センター

参加人数 282

対象 保育所・幼稚園、小学校の教諭、市町村教育委員会防災教育担当職員等

プログラム 13:30~「防災キャンプ推進事業」成果報告

(2)秋田県ホームページに平成26年度の本県防災教育の取組をまとめた「防災教育実践事例集」を掲載する際、「防災キャンプ」の取組事例を取り上げ普及啓発を図る。

5. 成果と課題

(1)事業成果

○3.11の際の自衛隊の方々の救助について知り、命の重さを考えた。
○学校だけではなく、地域の方々や自治会の方々と一緒に実施できたことが大きな成果となった。
○実際の場合にすぐ活かせる良い内容であった。
○子どもたちの活動を応援する実行委員会ができ、継続しやすい体制になった。
○子どもたちにとって大変貴重な体験となり、支える大人たちへの感謝の心が育った。

(2)事業運営上の課題・留意点

○一年で終わることのないように継続を図りたい。
○防災への意識を高めるために、「中学生」との連携も考えたい。
○プロの大人(自衛隊・日赤秋田県支部他)から学ぶ機会を今後も設けたい。
○自助・互助・公助のそれぞれの役割を確認できる体験を継続したい。

(3)その他

27年度新設統合する合川小学校と同じエリアにある合川中学校、あいかわ保育園、合川公民館が連携し、地域住民と合同の防災キャンプ実施への協議を図りたい。

6. 団体プロフィール

北秋田市教育委員会生涯学習課
〒018-3312 北秋田市花園町15-1 (中央公民館内)
電話0186-62-1130 FAX0186-62-1669